

なかよし・けんこう・とよく 天見小校長室だより 9月号

令和6年9月2日
天見小学校

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校



お盆過のころに、学校に行きますと、赤とんぼが無数に飛んでいました。まだ8月半ばを少し過ぎたころでしたが、天見の里は、秋を感じさせる気配を醸し出していました。しかし、まだまだ気温は35℃を超える毎日。年々、暑さがきつくなり、天見小学校の近くの温度計の電光掲示板は39℃を指していることもあり、目を疑いましたが、地元の方に聞いてみると、40℃を超えていた日もあったそうで、さらにびっくりしてしまいました。天見は他地区より2~3℃低いと思っているのに、この暑さ。日本の気温はどうなっていくのでしょうか。



私は、四季のある日本が大好きです。それなのに最近では、春の花いっぱい埋もれる季節、秋の紅葉いっぱい色づく季節、この二季節が短くなっているのが、寂しいなと思うばかりです。



夏の暑さも冬の寒さも好きですが、今年のように暑いと、プールに入れるかどうか、毎日のように心配しました。熱中症の危険が伴うからです。水をくべ水温を下げたりしながら、なんとか今年度は予定通り入ることができましたが、明らかに今までと違う心配が近年にはあります。何十年と教師生活を送ってきて、経験上、気温・水温が冷たくてプールに入れるかどうか悩んだことはたくさんありましたが、逆に、気温・水温が高すぎてプールに入れるかどうかということで悩みだしたのはここ数年のことです。

地球が悲鳴を上げている・・・住んでいる我々生き物も悲鳴を上げている、これから先、持続可能な社会を考えていくことはどんどん重大な課題として人間に課されることになるでしょう。我々にとって地球が生活するのに最適な場所であるならば、我々自身が地球の環境を守っていかないと、住むところさえも失ってしまうことになるのではないかと、地球環境が良くなることを



考え、小さなことからでも継続してやっていかねばならないのではないかと、考えさせられるほど、今年の暑さはすごすぎました。便利と破壊は表裏一体、いったい自分は何ができているだろう?と思ったりもします。とはいえ、エアコンのない生活に戻る勇気もないし、まだまだ便利の中に埋もれた生活をしていることを少し反省します。台風の大きさも気になります。どうぞ始業式には、台風が無事過ぎて、子どもたちの元気な笑顔と出会えますように。どこの家にも被害がありませんようにと、願うばかりです。(令和24年8月28日 著)

8月5日 星空観察会 & 科学実験教室



今年の夏、天見小学校では、今年の夏休みの新たな試みとして、「星空観察会 & 科学実験教室」を夏の夜に開催しました。もっと余裕をもって、みなさんにお知らせ出来たらよかったです。準備に時間がかかり、夏休み入る前、間際のお知らせになってしまったことをお許してください。

なぜこの試みをしたかったかという理由の一つ。昼間の天見小学校の自然の美しさ・良さは、みなさんに知ってもらっているけれど、昼だけでなく夜にも自然満載の小学校であることを知ってもらいたかったからです。我々教師は、帰りが遅い時間になる事も多く、夜の天見小学校の素敵さも知っています。初夏には、南天苑の方に行かせていただくと蛍が飛んでいたり、電気が街中より少なく空に星が輝いているのが良く見えたりもします・・・なので、せっかく天見小学校の自然を愛し入学してきてくださった皆さんに、夜の天見小学校もとてもいいところだということを知ってもらいたかったのです。

河内長野市の中で、光に邪魔されず星がきれいに見える小学校は天見小学校しかないだろうと思います。そして、天見小学校はこんなに素敵な学校なんだと感じてもらいた息もrでいっぱいでした。

夏休みだからこそできる「星空観察会」では、だれか星に精通されている方から説明していただけないかと探していたら、鈴木先生から頂いた情報で、「ちはや 星と自然のミュージアム」に連絡を取ってみると、館長の北さん、三好さんと井阪さんが「天体望遠鏡をもって喜んで行きます。」とおっしゃってください、開催できると決心し、実行することに決めました。欲張りな私は、それだけではもったいないと感じ、理科が専門の先輩の元南花台小学校校長の森本先生にお願いして、「科学実験室」も開いてくださることになりました。

「理科を楽しむ日」と題し、夏の自由研究のヒントにできればいいなと二つの教室を開催しました。



「科学実験室」では「物の燃え方」をテーマとして、最後は水素を燃やし、そ

の大爆発の音で、びっくり楽しい実験を見せてくださいました。

「星空観察会」では、その日の天気予報では曇りで、星が見えるかどうか心配していましたが、その時刻になると嘘のように雲が流れ、青空が見え出し、星が見え始めました。さそり座のアンタレスという赤い星や、夏の大三角や、こと座、白鳥座にある織姫星、彦星を見ることができました。写真は、「M57」の写真です。こと座にある惑星環状星雲（ドーナツ星雲、リング星雲とも言う。）を望遠鏡を通して見ることもできました。距離はなんと約2600光年とも2283光年とも言われています。この星の光は2000光年以上前に星の一生の最後を迎え大爆発したところの光を、今、私たちが見ていることになるのだそうです。1光年＝約9兆4600億Kmだそうですから、それに2283をかけた2600をかけた距離ほど離れているところからの、その光です。もう、今現在、実際には存在しない星かもしれません。



盛りだくさんのひと時でしたが、休憩タイムの軽食タイムも夜の学校で、食べることが楽しかったり、とてもいい感想をいただきました。一部を紹介します。



「子どもたちも興味津々で、すごく楽しかったです。星も色々説明してもらえてよかったです。」

「行程表を見たとき少し時間が長いと思いましたが、内容に見入ってしまいました。」

「夏の夏の大三角が見れて嬉しかったです。冬も星空が素敵だと思うので期待しています。」

「火の怖さも知ることができ、大人も楽しめる内容でした。望遠鏡で星が見れて貴重な体験ができてよかったです。」

「また、意識して空も見たいと思いました。長い夏休みに久しぶりに子ども同士であえて嬉しそうでした。大人も子供も興味深く、参加させていただきました。」

「すごく勉強になりました。子どもたちもすごく楽しんでいてよかったです。こんな風に星を見る機会がないのでとてもよい経験をさせていただきました。」

「子どもも大人も楽しめました。来年もしてほしいです。」

「大変興味深かったです。大人も(どうなるんだろう?)とドキドキしながら実験を見守りました。夏の夏の大三角、織姫、彦星の話も分かりやすく楽しく話を聞くことができました。望遠鏡で見ることができて感動しました。来年もぜひ企画していただきたいです。大人も勉強になりとても楽しい時間でした。」

感想を聞かせてもらったり読ませてもらったりすると、「また冬にも開催しましょう。」「来年も企画してください。」のお声もたくさん聞かせていただき、みなさんに喜んで帰ってもらえたのだなあ実感しました。「やってよかったな。」と思いました。開催時間の長さなど検討できることも多々あったと思いますが、それはまた次回開催出来たら、その時の参考にさせていただきたいと思います。

教育長はじめ市教委の先生方も「おもしろそうな企画をしてるから見に行こう。」と見に来てくださっていました。

市の広報の方やヤフーの奥河内の記事をあげておられる「おぐしさん」も取材に来てくださっていました。(10月の河内長野市の広報にこの様子はのせていただける予定になっています。)

今回の「科学実験教室&星空観察会」では、急な公募にもかかわらず、またお忙しい中、たくさん子どもたちを連れてきてくださった保護者の方々、ありがとうございました。そして子どもたちと同じ時間を皆で楽しんでいただけて、本当にうれしかったです。ありがとうございました。



また科学実験教室、星空観察会を進めてくださった講師の方々、学校運営協議会の委員の方々をはじめとする地域の方の応援にも、本当に感謝いたします。

最後に、企画したのは校長であっても、この会は、やはり私一人では開催できなかったと思います。天見小学校の職員の協力にも感謝し、夏休みの天見小学校の初めての試み「科学実験室&星空観察会」のご報告とさせていただきたいと思います。

初めて開催する取り組みで、始まるまで天候も含めて上手く進むかドキドキしていましたが、帰りの車の中で、参加してくださったみなさんの笑顔を思い出しながら、無茶苦茶幸せな気持ちで帰ることができました。みなさん、本当にありがとうございました。今年参加できなかった方々も、今度またどこかでもまたやりましょう。その時はぜひ参加してください。よろしくお願いたします。